

地区別座談会の報告Ⅱ

組合員の皆様の

ご意見・ご要望を集約して ご報告いたします。

第34回通常総代会前に地区ごとに関きました座談会において、組合員の皆様からたくさんのご意見・ご質問・ご要望等をいただきありがとうございます。総代会での内容も含めまして取りまとめ、集約してご報告いたします。「未来永劫」JA菊池のために、今後ともあたたかいご支援をお願いいたします。

*質問事項が重複・類似した案件については、集約し回答させていただきます。
*今回は、金融部・共済部・営農部・畜産部に関する内容を掲載しています。

金融部

Q 信用事業収益が年々減少しているようですが何か対応策はありますか。

A 信用事業については、10月から投資信託を開始する計画になっております。併せて貸出を含めた資金運用の強化に努めます。

共済部

Q ラジオ等で聞く自動車保険はごも安いようですが、JAの自動車共済掛金は他の保険会社と比べていかがでしょうか。

A ラジオやインターネットで宣伝している自動車保険の掛金は、車両保障がついていない場合もあります。JA共済は、充実した補償内容で他の保険会社に比べても比較的安い掛金となっています。

営農部・畜産部

Q 新規就農に対して行政とJAは協力して支援していく必要があると思いますが、JAとしてはどのように支援を行いますか。

A 就農前に栽培技術を学ぶための研修事業に取り組んでいます。また、農産物の生産指導に関しては営農指導員にて対応いたします。

Q カントリーエレベーター再編計画について進捗状況を教えてください。

A 令和5年度計画で提案しました泗水ライスセンター改修については、残念ながら国の補助事業が不採択となりました。近年、担い手不足や米価の低迷により、主食用米の作付け面積は減少傾向となっております。今後の農地流動化等の環境条件に留意しながら共乾施設の健全経営に向け協議を行い、施設再編に取り組んでまいります。

←

Q 米の品種「へまさんの輝き」の普及について考えをお聞かせください。

A 「へまさんの輝き」は、耐暑性に優れ整粒歩合が良く良食味の品種であり、短稈(茎が短い)で倒伏に強い特徴があります。また、茎数を確保することで多収となることから県の推奨品種となっておりますので、JA菊池では今後も作付け推進に取り組んでまいります。

Q 人参選果場の再編状況はどのような状況ですか。

A 令和6年度の国庫補助事業を活用した新設に向けて、各関係機関と協議を進めています。

Q 購買事業報告書にある農家支援対策金は、国からの補助金ですか？また、令和5年度も継続して行われますか。

A JA菊池独自の支援金です。肥料・資材に対する農家支援対策金は、3月29日に振り込んでいます。国からの肥料高騰対策助成金は別に3月20日に交付されています。令和5年度については、事業収支を踏まえ検討してまいります。

Q 西営農経済センターにおいて、出向く体制の強化となっていますが、どのような対応をされますか。

A 各中央支所営農課長を中心に、地域営農法人、集落営農組織、担い手(認定農業者、新規就農者等)への巡回を行い、相談及び要望等の調査を実施します。また、園芸指導員や営農経済渉外担当にタブレット端末を導入し、圃場情報等を基に巡回指導や情報の共有を実施します。

Q まんまキッチンの運営状況と店舗PR方法について教えてください。

A 運営状況は、オープン当初からコロナウイルスの発生により厳しい状況が続いています。そのためレストランでは、週末の夜間営業を開始しました。また、PRにつきましましては20代〜40代の使用率が高いshufopopuri(Webチラシ情報掲載)による情報発信や農産物市場まんまキッチン専用LINEによるPRを実施し、集客を図っております。

→

Q 乳価は値上げとなっておりますが、廃業者が増加しています。酪農経営が厳しい状況。このままでは、酪農業はなくなってしまう。組織・組合員を守る対応策をお願いします。

A この状況を危機突破するためにも、組織(部会)として一致団結し、農政連・酪政連を通じ要望することが大事であるため、現在農水省(国)へ対策などを要請しています。今後も、引き続き要望してまいります。

Q 配合飼料価格が高止まりして、将来の見通しが立たない中、中長期的な計画がなければ、酪農者の増加が懸念されます。対策を考えていますか。

A JA菊池でも検討を行っていますが、県酪連経済連全農等とも協議を行い検討していきたいと考えています。また、国策として行わなければ酪農者が増加していくと、JAとしても考えています。配合飼料安定基金の補填金を支払い易くするために、農水省から特例として緊急対策処置がなされています。また、肉牛でいえばマルキンの増額を農政連を通して、農水省に要請しています。今後もこのような取り組みを継続してまいります。

Q キャトルブリーディングステーションの令和4年度収支は、△1,700万円となっております。令和5年の計画では3,800万円の赤字となっております。どのように収支改善がなされますか。また、酪農家や肥育農家などの利用者の実際の声についてお聞かせください。

A 現在取り組んでいる自己改革タスクフォースを進めて、収支改善を図っていきます。また、飼養管理の徹底によりAランク牛の出荷率を高め、収益性を高めることが大切だと考えています。利用者からの評判は良く、枝肉成績の結果にも表れており、子牛の価格も市場より低く設定されているため、導入し易くなっています。